小　学　校

平成 30 年度

教育研究員報告書

家　庭

東京都教育委員会

目　　次

Ⅰ　研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

1　社会背景及び児童や家庭の実態と家庭科の意義・役割

2　新学習指導要領と本研究との関わり

Ⅱ　研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

1　自分の生活について振り返り、課題をもち、解決しようとする力を育む視点

2　見方・考え方を働かせ、判断し、よりよい方法を決定する力を育む視点

Ⅳ　引用及び参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅴ　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅵ　研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

1　検証授業①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

2　検証授業②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

3　検証授業③・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

Ⅶ　研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

Ⅷ　研究の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

研究主題

よりよい生活の在り方を考え、実生活に生かす児童の育成

Ⅰ　研究主題設定の理由

本研究では、家庭科の学習における「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせて、自分の生活の改善に向けて課題を解決しようとする主体性を児童にもたせるため、題材の提示や発問などをより一層工夫する。また、対話的な学びを充実させることで、児童が「見方・考え方」を働かせながら、多様な考えの中からよりよい方法を自ら判断・決定し、実生活における自身の課題解決に生かしていけるような力を育成する。

1　社会背景及び児童や家庭の実態と家庭科の意義・役割

平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申では、「家庭生活や社会環境の変化による家庭や地域の教育機能の低下」、「家族・家庭生活の多様化」及び「消費生活の変化」を現代の家庭や地域社会の現状として挙げ、「グローバル化や少子高齢社会の進展」及び「持続可能な社会の構築等」への対応の必要性が述べられている。こうした現状を背景に、同答申では、現行学習指導要領の家庭科の課題について、「家族の一員として協力することへの関心の低下」及び「家庭での実践や社会に参加することの不足」等が指摘されており、今後の社会の急激な変化に主体的に対応する力を育成していくことが、求められている。

平成 29 年３月告示の小学校学習指導要領（以下、「新学習指導要領」と表記。）では、歴代の学習指導要領の中で初めて前文が示された。前文では、学習指導要領が果たす役割の一つとして、各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、長年にわたり積み重ねてきた教育実践や、学術研究の蓄積を生かしながら、児童や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動のさらなる充実を図っていくことも重要であると示されている。

学校と家庭・地域等との連携は児童の学力とも関連がある。平成 29 年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題に関する調査研究（文部科学省委託研究）によると、過去５年間にわたり継続的に学力向上の成果を上げている学校の特徴の一つとして、地域や保護者との良好な関係を基盤とした積極的な地域連携が図られていることが分かった。また、保護者が子供に対して「努力することの大切さ」、「最後までやり抜くことの大切さ」及び「地域や社会への貢献」等を働きかけている家庭は、児童の学力が高い傾向にあると分析している。

これらのことから、家庭を取り巻く環境は時代とともに大きく変容しているが、学校と保護者が連携し、児童に関わっていくことが必要不可欠であり、家庭や地域と関わりながら具体的な課題と向き合うことができる教科として、家庭科の重要度が増していると考える。

2　新学習指導要領と本研究との関わり

新学習指導要領では、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を三つの柱に整理するとともに、子供の資質・能力の育成が偏りなく実現できるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うこと、その際、各教科の「見方・考え方」を働かせ、各

教科の学習の過程を重視して充実を図ることが求められている。平成 29 年 7 月告示の小学校学習指導要領解説（以下「新学習指導要領解説」と表記。）総則編では、この「見方・考え方」を各教科の学びの深まりの鍵となるものと位置付けており、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであるとしている。

「主体的・対話的で深い学び」の実現には、各単元や題材において、有用感をもって学ぶため、教科の特質に応じた物事を捉える視点である「見方・考え方」を働かせることが重要である。

新学習指導要領解説家庭編において、家庭科は「生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫する」教科であるとされ、その指針として「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせることが新たに示されている。この「見方・考え方」について、中学校の新学習指導要領解説家庭編では、「個々の課題に直面した時のよりどころとなる価値判断の基準」であると記載されている。つまり、「生活の営みに係る見方・考え方」は、家庭生活の様々な課題に直面した時の価値判断の指針となり得るものであり、その基盤として自立し共に生きる精神が必要であると読み解くことができる。

なお、「生活の営みに係る見方・考え方」は、既習の知識及び技能の定着度や家庭等での経験の有無により個人差がある。よって、児童が自ら経験することだけでなく、集団での学びの充実により他者の「見方・考え方」に触れることが相互の考えの幅を広げることに有効であり、よりよい方法を判断・決定するための選択肢を増やすことにつながると考える。

以上のような解釈から、本研究では「よりよい生活」の定義を、「児童が『生活の営みに係る見方・考え方』を働かせて着想した、よりよい方法を判断・決定した家庭生活」とした。生活の利便性が高まった現代社会において、課題の解決を図るための方法や工夫、行動は様々に存在するが、その中で「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせれば、持続可能な社会における自立し共に生きる「よりよい生活」はおのずと精選されるのではないかと考えた。すなわち「よりよい生活」とは、利便性や自分の都合のみで考えるのではなく、「見方・考え方」を働かせることによりある程度制限される枠組みの中から見極めるものであるとした。そうした見極めの過程を本研究主題では「在り方を考える」とした。また、「実生活に生かす」とは、よりよい生活の実現に向けて、児童が自分の家庭生活の中から見いだした課題について、「見方・考え方」を働かせながらその解決に向けて考え、実践し、工夫・改善を繰り返すことであると捉えた。

本研究を通して家庭科の役割を再確認するとともに、現行学習指導要領の家庭科の課題を解決するための具体的な授業改善を図る。

Ⅱ　研究仮説

家庭科の学習を通して「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた課題解決型学習を取り入れれば、よりよい生活の在り方を考え、実生活に生かそうとする児童が育成できるであろう。

Ⅲ　研究の視点

１　自分の生活について振り返り、課題をもち、解決しようとする力を育む視点

(1)　実感を伴わせる学習活動の工夫、「見方・考え方」を働かせる場の設定

実感を伴わせる教材等の工夫により、児童が自己の行動の社会的な意義や、家族や消費者の一員としての役割に気付き、自分の生活の課題について考えをもてるようにする。また、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせる場を設定し、何気なく過ごしている普段の生活も、視点を変えればよりよい生活に向けて工夫できることに気付けるようにする。

(2)　「学習課題」を明確にした課題解決型学習

自分や家族が豊かな生活を享受し続けるため、今考えるべき必要感のある課題を各題材で「学習課題」と位置付け、自分や家族の課題の解決に向けた取組と振り返りを繰り返すことで学びを深められるようにする。

２　見方・考え方を働かせ、判断し、よりよい方法を決定する力を育む視点

(1)　基礎的・基本的知識及び技能の概念化

既習の知識及び技能を題材や教科等を横断して学べるようにすることで、より概念的に理解することができると考える。それが汎用性のある知識及び技能となり、児童が解決に向けた考えをもつことにつながると考える。

(2)　対話的な学習の計画的な設定

対話的な学習活動を計画的に組み入れることにより、他の児童が「見方・考え方」をどのように働かせているかに気付く機会が生まれ、自分の考えの幅を広げ、解決に向けた選択肢を増やすことができると考える。

(3)　よりよい生活の在り方を考えるための思考の場の設定

児童一人一人の考えを分類したり、課題に合わせた優先度に気付かせたりすることで、児童の考えが整理されるようにする。そして、児童が数ある考えの中からよりよい生活の在り方を決定するために「学習課題」に立ち返り、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた解決ができるようにする。

Ⅳ　引用及び参考文献

・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中央教育審議会 平成 28 年 12 月 21 日）
・文部科学省委託研究 平成 29 年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究（国立大学法人お茶の水女子大学 浜野隆 平成 30 年６月 27 日）
・小学校学習指導要領（文部科学省 平成 20 年３月）
・小学校学習指導要領（文部科学省 平成 29 年３月）
・小学校学習指導要領解説総則編（文部科学省 平成 29 年７月）
・小学校学習指導要領解説家庭編（文部科学省 平成 29 年７月）
・中学校学習指導要領解説家庭編（文部科学省 平成 29 年７月）
・教育研究員報告書 小学校・家庭（東京都教育委員会 平成 30 年３月）

Ⅴ　研究構想図

社会的背景及び社会の要請

・社会構造の変化
・家庭・地域の教育力の低下
・生活の利便性の向上
・家族・家庭生活の多様化
・経済・社会のグローバル化
・少子高齢化
⇒持続可能な社会の創り手となる子供の育成

家庭科における児童の実態

◎学習への関心が高い
◎普段の生活や社会に出てからの有用感が高い
●家族の一員として協力することへの関心が低い
●家庭実践や地域参画の不足
●知識及び技能を活用した生活課題の解決能力が低い

家庭科に求められていること

◎家族や地域の一員であることへの自覚をもつこと
・家族の一員としての協働
・異世代との関わり
・食育の推進
・資源や環境への配慮
・生活文化の継承

◎家族の機能の理解と衣食住の生活の自立
・家庭生活の科学的理解
・知識及び技能の定着
・知識及び技能の活用と生活課題の解決

新学習指導要領　小学校家庭科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
(2)　日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
(3)　家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

平成30年度
教育研究員
共通研究テーマ
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

研究主題

よりよい生活の在り方を考え、実生活に生かす児童の育成

研究仮説

家庭科の学習を通して「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた課題解決型学習を取り入れれば、よりよい生活の在り方を考え、実生活に生かそうとする児童が育成できるであろう。

【課題解決型学習】深い学びの実現に向けて

主体的な学び

自分の生活について振り返り、課題をもち、解決しようとする

対話的な学び

広げる　課題の解決に向けた考えを広げる
選ぶ　多様な考えを「見方・考え方」を働かせて判断する
決める　自分の課題と向き合い、解決方法を決定する

よりよい生活の在り方を考える

生かす　**課題を解決し、実生活に生かす**

生活の営みに係る見方・考え方
○協力・協働
○健康・快適・安全
○生活文化の継承（・創造）
○持続可能な社会の構築

研究の視点　1　自分の生活について振り返り、課題をもち、解決しようとする力を育む視点
2　見方・考え方を働かせ、判断し、よりよい方法を決定する力を育む視点

Ⅳ　研究内容

※本研究で表記する内容項目番号は、新学習指導要領解説家庭科編のP11「小学校家庭科 新旧内容項目一覧」を基に、新学習指導要領の内容項目番号で記載する。

1　検証授業①

(1)　題材名　第５学年「食べて元気！ご飯とみそ汁」

(2)　指導内容

内容Ｂ(1) 食事の役割

ア　食事の役割と食事の大切さ、日常の食事の仕方

内容Ｂ(2) 調理の基礎

ア　(ｵ) 伝統的な日常食の米飯及びみそ汁の調理の仕方

内容Ｂ(3) 栄養を考えた食事

ア　(ｱ) 体に必要な栄養素の種類と働き

(ｲ) 食品の栄養的な特徴と組み合わせ

(3)　題材の目標

【内容Ｂ(1)】

日常とっている食事に関心をもち、食事の役割を考えて食事を大切にしようとする。

（家庭生活への関心・意欲・態度）

食事の役割や大切さについて理解する。　（家庭生活についての知識・理解）

【内容Ｂ(2)】

日本の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁に関心をもち、調理しようとする。

（家庭生活への関心・意欲・態度）

おいしい米飯及びみそ汁の調理の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりする。

（生活を創意工夫する能力）

米飯及びみそ汁の調理ができる。　（生活の技能）

米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解する。　（家庭生活についての知識・理解）

【内容Ｂ(3)の目標】

日常の食事に関心をもち、栄養を考えた食事のとり方をしようとする。

（家庭生活への関心・意欲・態度）

栄養を考えた食事について課題を見付け、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりする。　（生活を創意工夫する能力）

栄養を考えた食事のとり方について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。

（家庭生活についての知識・理解）

(4)　題材の評価規準

	ア　家庭生活への関心・意欲・態度	イ　生活を創意工夫する能力	ウ　生活の技能	エ　家庭生活についての知識・理解
Ｂ(1)	①日常とっている食事に関心をもち、食事の役割を考えて食事を大切にしようとしている。			①食事の役割や日常の食事の大切さについて理解している。

B (2)	②日本の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁に関心をもち、調理しようとしている。	①おいしい米飯及びみそ汁の調理の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。	①米飯及びみそ汁の調理ができる。	②米飯およびみそ汁の調理の仕方について理解している。 ③調理に必要な用具や食器及び加熱調理器具の安全で衛生的な取り扱い方について理解している。
B (3)	③食事に含まれる栄養素が体の成長や活動のもとになることに関心をもっている。 ④食品をグループに分けることなどを通して、食品の栄養的な特徴や食品の組み合わせに関心をもっている。	②米飯とみそ汁を中心とした三つのグループの食品のそろった食事について考えている。		④五大栄養素の種類と働きについて理解している。 ⑤栄養を考えて食事をとることの大切さについて理解している。 ⑥三つのグループの食品を組み合わせることにより、栄養のバランスがよい食事になることを理解している。

(5)　題材の指導計画（全 11 時間）

次	時	◎　小題材名　・　学習活動	○　育てたい資質・能力 □　概念的な理解	評価規準
1	1 本 時	◎毎日の食事を見つめ、学習課題を立てよう ・食事の役割への関心をもち、よりよい食事の在り方の学習課題を立てる。	○食事の役割への関心	ア①
		学習課題　どのような食事をすれば、毎日を健康に過ごせるだろうか。		
		・食事を作る際に気を付けていることを、家族にインタビューする。		
	2	◎なぜ食べるのか考えよう ・食品に含まれる栄養素とその必要性を考える。 ・五大栄養素の種類と体内での働きを知る。	○食事により栄養をとることへの関心 ○食品の栄養的な特徴の理解 ○五大栄養素の種類と働きの理解	ア③ エ① ア④ エ④
	3	◎どのようにして食べるとよいか考えよう ・伝統的な日常食であるご飯とみそ汁を中心とした和食文化とその特徴について知る。 ・これまでの学習を踏まえて、学習課題に対する自分の考えをもち、学級で考えを共有する。	○ご飯とみそ汁への関心 ○主食・汁物・主菜・副菜の理解 ○料理を組み合せる必要性の理解 □日常の食事は、健康を保ち、成長のもとになるため、栄養を考えて、料理を組み合わせることが大切である。	ア② エ⑤ エ⑥
2	4	◎食事の組み合わせの基礎となる「ご飯」と「みそ汁」が作れるようになろう ・調理の仕方を調べて安全に配慮した調理実習の計画を立てる。	○安全に配慮した調理の計画	エ③
	5 6	・安全に配慮して、文化鍋で米飯を調理する。	○鍋による米飯の調理の理解及び調理の技能（洗米・浸漬・炊飯・蒸らし・盛り付け）	ウ① エ②

	7 8 9	・安全に配慮して、煮干しだしを用いたみそ汁を調理する。 ・学習課題に対する考えをもち、学級で考えを共有する。	○煮干しだしのみそ汁の調理の理解及び調理の技能（だしと実の準備、みその溶き方） □和食は、おいしく、健康的な食文化であり、自分で作ることができる。	ウ① エ② ア② イ①
3	10	◎毎日の食生活に生かそう ・学習課題に立ち戻り、自分の考えをまとめる。 ・毎日を健康に過ごすために、自分の食生活で実践することを決める。	○栄養を考えた食事の工夫 □健康に過ごすためには、和食を例とした栄養バランスのよい食事を考え、自分で調理できるようになることが大切である。	ア① イ②
		家庭における実践		
	11	◎実践報告会をしよう ・報告会で互いの実践を伝え合い、新たな自分の課題をもつ。	○栄養を考えた食事の改善と工夫	ア① イ②

(6)　視点に迫るための手だて

ア　自分の生活について振り返り、課題をもち、解決しようとする力を育む視点

本題材で中心となる「生活に係る見方・考え方」について、【表１】のような整理を行い、特に大切にしたい視点が「健康」であると捉えた。そこで、児童が、健康と食の関連について「健康」という視点で思考を深めていけるように、「どのような食事をすれば健康に過ごせるのか」という題材を通した学習課題を立て、授業を展開していく。また、児童の実生活につながるような発問をすることに留意し、自分と家族の食生活を振り返る場を適宜もつように計画していく。このことにより、家庭科の学習は実生活に生かすためのものであることを児童に意識付けていく。（視点１−(1)）

【表１　本題材の指導内容と、主に働かせたい「見方・考え方」との関わり】

視点 指導内容	協力・協働	健康・快適・安全	生活文化の継承・創造	持続可能な社会の構築
内容Ｂ(1)ア		○		
内容Ｂ(2)ア			○	
内容Ｂ(3)ア(ｱ)(ｲ)		○		

題材の導入では、三種類の食事のイラストを比較する活動を通し、児童がこれまで、食事を選ぶ際に何気なく使っていた視点について改めて気付くことができる場を設定する。また、視点の優先順位を考える活動を通して、食事の役割や大切さに気付き、学習課題につなげる。（視点１−(2)）

イ　見方・考え方を働かせ、判断し、よりよい方法を決定する力を育む視点

児童に身に付けさせたい基礎的・基本的知識及び技能を明確にして計画的に指導し、学習の節目でそれを統合し概念化できるようにすることで、児童が学習課題の解決のために活用できるように導く。

本題材では、まず「どのような食事をすれば健康に過ごせるのか」という学習課題を立

て、食品から栄養をとる意義、食品の体内での主な働き、五大栄養素の種類と働き、食品や料理を組み合わせてとる必要性等を学ぶ。そして、「日常の食事は、健康を保ち、成長のもとになるため、栄養を考えて、組み合わせることが大切である」という概念的な理解を目指す。次に、「実生活では、自分で食事を考え調理する必要性がある」という課題に気付かせ、日本の伝統食である米飯とみそ汁の調理に取り組むことで基礎的・基本的知識及び技能を身に付け、「和食は、おいしく、健康的な食文化であり、自分で作ることができる」という概念的な理解を目指す。題材の終末においては、これまでの学習を踏まえ再び学習課題に戻り、「健康に過ごすためには、和食を例とした栄養バランスのよい食事を考え、自分で調理できるようになることが大切である」という、概念的な理解を目指す。

また、学んだことを実生活に生かす場面では、児童がこれまでの概念的な理解を踏まえ、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら自分の家庭に応じた実践計画を立てられるようにする。実践を積む中で、失敗も成功につなぐことができるよう家庭での見守り等の連携を図ることに留意していく。（視点２-(1)）

(7)　本時（１／11 時間）

ア　小題材名　毎日の食事を見つめ、学習課題を立てよう

イ　ねらい

日常とっている食事に関心をもち、食事の役割を考えて食事を大切にしようとする。

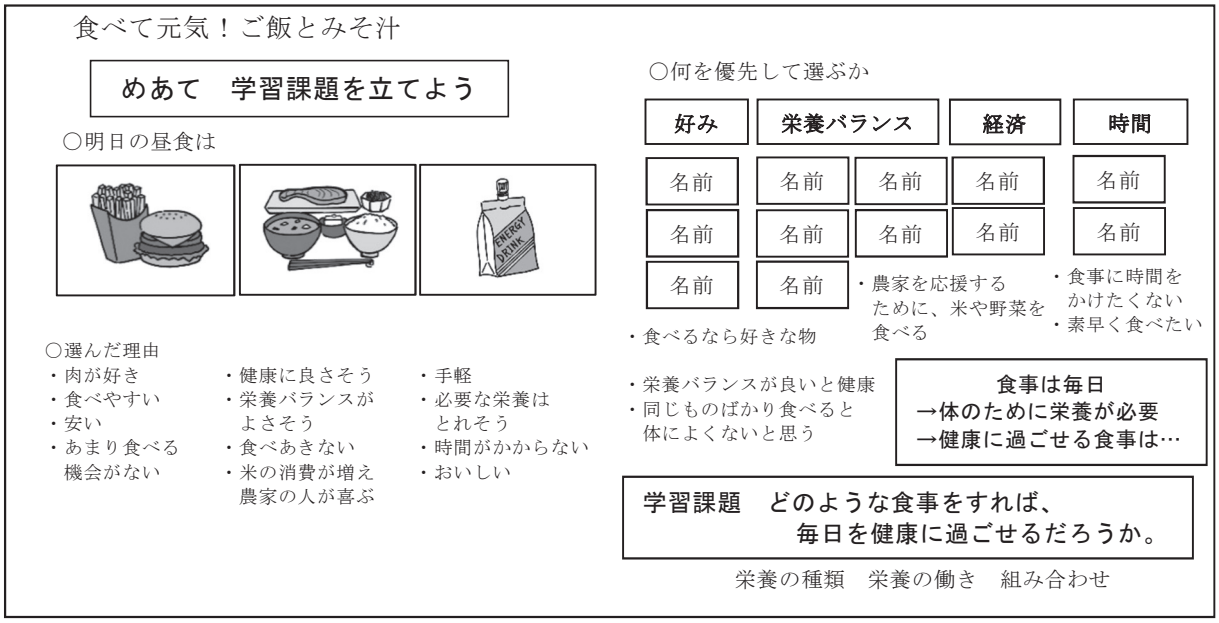
（家庭生活への関心・意欲・態度）

ウ　展開

	児童の学習活動 ○教師の発問　・予想される児童の反応	●支援　□評価 視点に迫る手だてとの関連
導入	1　①②③の食事のイラストを見比べて昼食に選びたいものを決め、自分の考えと理由を発表する。 ○　明日の昼食を決めます。あなたはどれにしますか。理由は何ですか。 ①・好肉が好きだから。 ・好普段食べる機会が少ないから。 ・時買ってすぐ食べられるから。 ・好お腹がいっぱいになるから。 ②・栄健康によさそうだから。 ・栄栄養のバランスがいいから。 ・好食べ飽きないと思うから。 ・金米の消費量を増やしたほうが農家の人が助かると思うから。 ③・時食べる時間がかからないから。 ・金あまりお金がかからないから。 ・栄必要な栄養がとれると思うから。 ・好甘くておいしいから。	●食事のイラストを提示することで、自分の食事とその選び方を想起させる。 多様な意見を引き出す導入の工夫 （視点２-(2)）（視点１-(1)） ●児童の意見を板書しながら、下記のようにいくつかの観点に分け、整理する。 児童の意見の観点整理 （視点２-(2)） 観点の視覚化 （視点２-(3)） ＜予想される観点例＞ 好み（味・量など）⇒好　手間や時間＝時 栄養⇒栄　お金・産業との関連⇒金

展開	2　自分が食事を選ぶとしたら、どの観点を優先したいか考え、その観点と理由をワークシートに書く。 ○　私たちはいろいろな観点から食事を選んでいることが分かりました。では、実際の生活で食事を選ぶとすれば、あなたはどの観点を最も優先したいですか。また、それはなぜですか。 ・㊚普段は自分で選べないから、選べるなら好きなものを食べたい。 ・㊖食事に時間をかけたくないから、素早く食べられるものにしたい。 ・㊫栄養のバランスがいいと、健康でいられる。 ・㊫好きな物を選んで同じような物ばかり食べると体によくないと思う。 ・㊧農家を応援するためにも、米や野菜を食べた方がいい。	●食事を選ぶ際に何気なく使っていた観点について気付くことができるようにする。 実生活についての振り返りの場面の設定 （視点１－(1)）
	3　自分の選んだ観点の下に自分のネームプレートを貼り、自分と異なる観点の人と意見交流をし、優先すべき観点について改めて考える。 4　学級全体で意見交流し、学級全体の考えをまとめる。 ・食事は１回きりではない。 ・毎日の食事を選ぶとなると、優先するのは「栄養」ではないか。 ・「お金」は限りがあるから節約したい。 ・病気になると困るから、体のことを考えるとやはり「栄養」が一番。 ・健康を大切にする必要がある。	●自分の考えを相互に伝え合う活動により、自分と異なる考え方を知り、新たなよさに気付けるようにする。 対話的な学習による 児童の考えの変化を示す工夫 （視点２－(2)） ●全体で意見を発表させる中で、児童の対話の過程の要点を板書で明示する。 ●食事は、毎日の生活を健康に過ごすために欠かせないものであり、継続性を加味して考える必要性があることに気付けるようにする。 対話を促すファシリテーターとしての教師の役割の設定 （視点２－(2)）
まとめ	5　学習課題を立てる。 ○　これまで出たキーワードを使い、学習課題を立てましょう。	児童の言葉による学習課題の設定 （視点１－(2)）
	学習課題　どのような食事をすれば、毎日を健康に過ごせるだろうか。	
	6　今日の学習の振り返りを行い、今後の学習の見通しをもつ。 ○　今日の学習を振り返り、学習課題を解決するためにこれから調べたいことや、学習したいことを書きましょう。	□日常とっている食事に関心をもち、食事の役割を考えて食事を大切にしようとしている。　（ワークシート・発言） ●児童から出たキーワードを板書しながら、今後の学習過程の視覚化を図り、学習の見通しをもたせる。

エ　板書計画



(8)　検証授業の振り返り

ア　成果

(ｱ)　自分の生活について振り返り、課題をもち、解決しようとする力を育む視点

実生活についての振り返りの場面の設定　多様な意見を引き出す導入の工夫（視点１-(1)）

三種類の食事のイラストを比較する活動により、日常で食事を選ぶ際に働かせている観点を顕在化させ、児童に気付かせることができた。また、優先させたい観点について対話しながら考える活動により、児童が食事の意義や役割に気付き、「健康」という「見方・考え方」に即した学習課題をもつことができた。

児童の言葉による学習課題の設定（視点１-(2)）

まとめでは、児童の発言を抽出して板書することで、児童に本題材を通した学習課題について主体的に捉えさせることができた。

(ｲ)　考え方を広げ、判断し、よりよい方法を決定する力を育む視点

対話を促すファシリテーターとしての教師の役割の設定（視点２-(2)）

児童による全体での意見交流の場では、児童が互いの意見を聞き合うことで考えを練り上げることができるようにした。これにより、食事は毎日の生活を「健康」に過ごすために欠かせないものであり、継続性を加味して考える必要性があるという、「見方・考え方」に即した気付きが生まれ、主体的に学習課題を立てることができたと考える。

イ　課題

児童の思考に沿った発問や活動の吟味（視点２-(2)）

対話の過程をキーワードで明確に提示して、対話的な学習を積極的に取り入れた。しかし、対話により意見が変わった時の意思表示の仕方は改善する必要があった。また、自由に意見交流する場での目的は、自分と異なる考え方を知り、よさに気付くことであったが、その後の全体での話し合いの目的ともっと差異を図る必要はないのか、疑問が残った。児童の思考に沿った発問や活動をより吟味する必要があると考える。

2　検証授業②

(1)　題材名　第５学年「じょうずに使おう お金と物」

(2)　指導内容

内容Ｃ(1) 物や金銭の使い方と買物

ア　(ｱ) 買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の大切さ、計画的な使い方

(ｲ) 身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理

イ　身近な物の選び方の工夫

(3)　題材の目標

【内容Ｃ(1)】

買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の計画的な使い方に関心をもち、物や金銭を大切にし、適切に買物をしようとする。　(家庭生活への関心・意欲・態度)

物や金銭の計画的な使い方と適切な買物について課題を見付け、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりする。　(生活を創意工夫する能力)

物や金銭の計画的な使い方と、情報の収集・整理の仕方、適切な買物の仕方に関する基礎的・基本的な技能を身に付ける。　(生活の技能)

買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の計画的な使い方と適切な買物に関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。　(家庭生活についての知識・理解)

(4)　題材の評価規準

	ア　家庭生活への関心・意欲・態度	イ　生活を創意工夫する能力	ウ　生活の技能	エ　家庭生活についての知識・理解
C (1)	①自分の生活との関わりから、物や金銭の大切さに気付き、その使い方に関心をもっている。 ②買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の計画的な使い方に関心をもち、適切に買物をしようとしている。	①購入しようとする物の品質や価格などの情報を活用し、目的に合った物の選び方や買い方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 ②生活で使う身近な物や金銭の計画的な使い方と適切な買物について課題を見付け、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりしている。	①購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め、整理することができる。	①限りある物や金銭の有効な使い方や買物の手順について理解している。 ②目的や品質を考えた物の選び方や適切な買い方について理解している。 ③消費者としての役割や品物を選ぶ際の観点を理解している。

(5)　題材の指導計画（全５時間）

次	時	◎　小題材名　・　学習活動	○　育てたい資質・能力 □　概念的な理解	評価規準
1	1本時	◎お金や物の使い方について、学習課題を立てよう ・金銭の役割や買物の仕方への関心をもち、よりよい消費生活の在り方の学習課題をもつ。	○金銭の役割や買物の仕方への関心 ○家族の労働により物や金銭が	ア①

		・失敗例からどのようなことを学ぶ必要があるか具体的に考える。	得られることへの関心と理解	
		学習課題　どのような買物の仕方をすれば、むだのない生活ができるだろうか。		
	2	◎計画的な物やお金の使い方を考えよう ・家庭ではどのようにしてお金を得て、どのようなことに使っているかを考える。	○収入と支出のバランスの理解 ○計画を立てて買うことの理解 □家族全員の生活を支えるために、金銭をバランスよく使うことが大切である。	エ①
2	3	◎どのようにして物を選んだり買ったりすればよいか考えよう ・身近な物（文具等）から観点に沿って情報を収集・整理する。 ・整理した情報から購入するものを選んで買う方法を考える。	○購入時における情報の収集・整理の技能 ○情報を活用した買い方の工夫	イ① ウ①
	4	◎お金の支払い方や、買物の振り返り方を考えよう ・身近な買物例から、商品の購入時の金銭の支払い方を考え、金銭を介した契約には消費者側にも責任があり、簡単には取り消せないことを知る。 ・購入後にどのような視点で買い方を振り返るか考える。	○買物の仕組み及び売買契約の基礎と消費者の責任や役割の理解 □商品を購入する時には、情報を収集・整理し、消費することへの責任をもって買うことが大切である。	イ② エ② ア②
3	5	◎毎日の生活に生かそう ・学習課題に立ち戻り、自分の考えをまとめる。 ・毎日がよりよい生活になるように、自分の物やお金の使い方で改善することを考える。	□家族が毎日をよりよく過ごすには、普段から物や金銭を大切にし、本当に必要な物をよく考えて選び、消費することへの責任をもって買うことが大切である。	エ③
		家庭における実践		

(6)　視点に迫るための手だて

ア　自分の生活について振り返り、課題をもち、解決しようとする力を育む視点

本題材で中心となる「生活の営みに係る見方・考え方」について、【表２】のような整理を行い、特に大切にしたい視点が「持続可能な社会の構築」であると捉えた。そこで、児童が、物や金銭を使ったり、選んだりする場面で、「持続可能な社会の構築」という視点で思考を深めていけるように、「どのような買物の仕方をすればむだのない生活ができるのか」という題材を通した学習課題を立て授業を展開する。

授業では、児童がこれまでの生活経験について、失敗したことも含めて見つめ直せるように発問を行い、自分が理想とする生活を目指すために必要なことを気付けるように、計画する。このことにより、家庭科の学習は実生活の改善を目指すものであることを児童に意識付ける。（視点１-(1)）

【表２　本題材の指導内容と、主に働かせたい「見方・考え方」の視点との関わり】

視点／指導内容	協力・協働	健康・快適・安全	生活文化の継承・創造	持続可能な社会の構築
内容Ｃ（1）				○

題材の導入時には、児童が経験した宿泊行事でのお土産の購入場面を振り返る活動や、身近な生活に無駄遣いが無いか見つめ直す活動を通して、無駄遣いの原因に気付かせていく。そして、持続可能な社会の構築に向けて無駄のない生活を目指すことの必要性を感じさせ、学習課題につなげていくようにする。（視点１－(2)）

イ　見方・考え方を働かせ、判断し、よりよい方法を決定する力を育む視点

本題材では、「どのような買物の仕方をすれば、むだなく生活できるだろうか」という学習課題を立てるよう計画する。そして、物や金銭の大切さや、収入と支出のバランスの大切さ及び必要性を踏まえて計画的に買うことの大切さなどに気付かせる。そして、「家族全員の生活を支えるために金銭はあり、それをバランスよく使うことが大切である。」という概念的な理解を目指す。次に、「実生活では、自分で商品の情報を集め、選び方や買い方を考えて、買物をする必要がある」ということに気付かせ、模擬的な買物の学習を通して、買う手順やよりよい物の選ぶための情報の集め方や活用の方法、買い方等を理解させる。さらに、売買契約に関する基礎的な知識を得ることで、買物に対する消費者としての責任をもてるようにする。これにより、「商品を購入する時には、情報を収集・整理し、消費することへの責任をもつことが大切である。」という概念的な理解を目指す。題材のまとめでは、概念化された知識を活用して、実生活での選び方、買い方等を自分なりに考え、次の買物に生かすことができるようにする。（視点２－(1)）

(7)　本時（１／５時間）

ア　小題材名　お金や物の使い方について、課題を見付けよう

イ　ねらい

自分の生活との関わりから、物や金銭の大切さに気付き、その選び方や使い方に関心をもとうとする。（家庭生活への関心・意欲・態度）

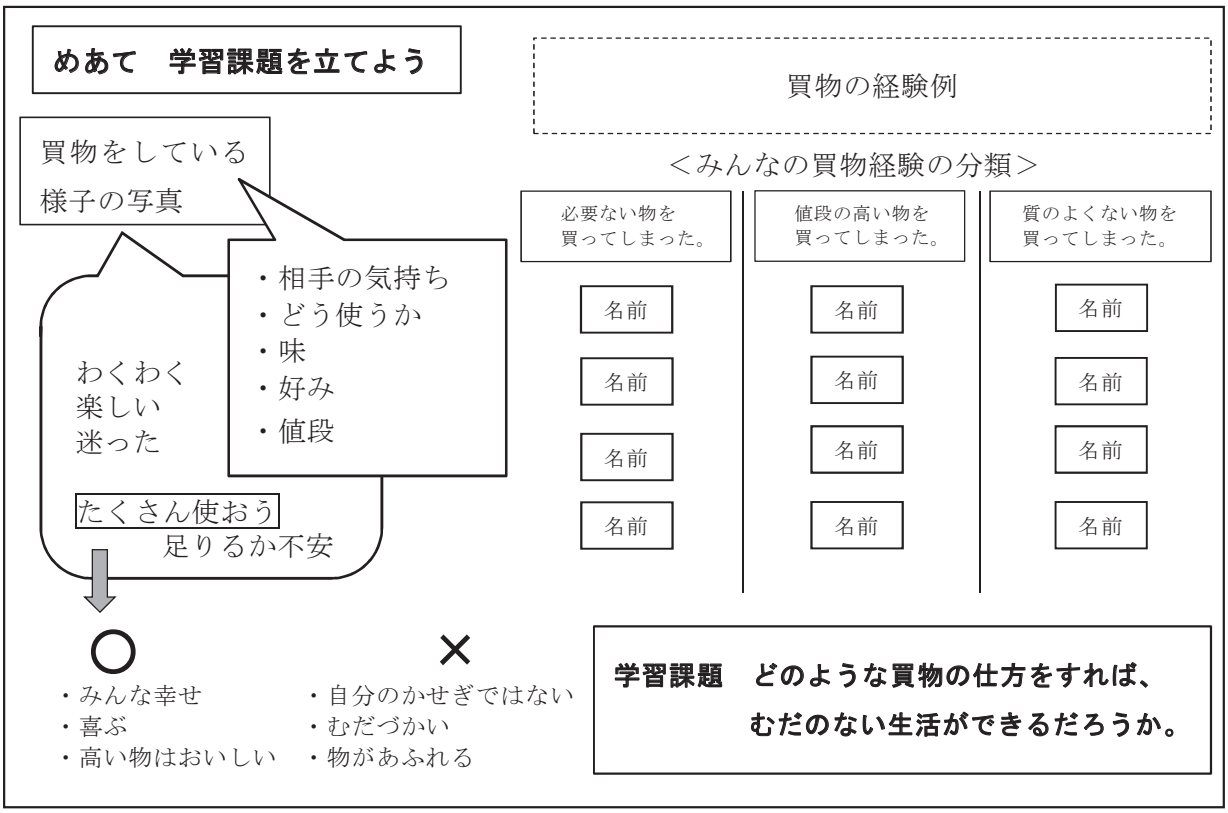
ウ　展開

	児童の学習活動 ○教師の発問　・予想される児童の反応	●支援　□評価 視点に迫る手だてとの関連
導入	1　宿泊行事でお土産を買う経験から、自分の買物について振り返る。 ○　自分で買物をした時、どのような気持ちになりましたか。 ・好きな物を選ぶのが楽しかった。 ・いろいろな商品があり、わくわくした。 ・どれにしようか迷った。 ・お金が足りるか不安だった。	●宿泊行事で実際に買物をしている様子の写真を見せ、児童がその時の自分の気持ちを思い出せるようにする。 実生活を振り返る導入の工夫 （視点１－(1)）

導入	○　どのようなことを考えてお土産を選んだり、買ったりしましたか。 ・家族が喜んでくれるか。 ・買った後、家でどのようにして使うか。 ・どのような味か。自分の好きな味か。 ・たくさん買うにはどうすればよいか。	
展開	2　お金の使い方について考える。 ○　お金を多く使って、自分の思い通りに物を買うことは、よい生活と言えますか。 ・お金の無駄遣いはよくない。 ・自分で稼いだお金ではないから、大事にする。 ・いつかお金が足りなくなってしまう。 ・買うのは簡単だけれど、稼ぐのは大変。 ・必要ない物を買うのはもったいない。 3　学級全体で意見交流し、学級全体の考えをまとめる。 ・お金は家族が働いて得ていて、子供は稼ぐことができない。 ・家庭のお金には限りがあり、無駄に使うとすぐに無くなってしまう。 ・お金の無駄遣いは、物を無駄に買うことにもつながる。 4　自分の生活を振り返り、お金や物を無駄にしてしまった経験について考え、ワークシートに書き、グループで自分の経験を伝え合う。	●全体での意見を発表させる中で、金銭は家族が日々労働することよって得られるものであり、有限性があることに気付けるようにする。 ●互いの考えを伝え合う場を設定することで、物や金銭に関わる様々な経験があることに気付けるようにする。 意見交流を促す学習形態の工夫 （視点２－(2)）
まとめ	5　無駄遣いにはどのような種類があるのかを分類・整理して確認する。 ①必要無い物を余分に買ってしまった。 ②値段の高い物を買ってしまった。 ③質のよくない物を買ってしまった。 6　学習課題を立てる。 学習課題　どんな買物の仕方をすれば、むだのない生活ができるだろうか。	●児童が挙げた経験から、無駄遣いの種類を大別して示し、学習課題や学習の見通しをもてるようにする。 児童の意見の観点整理と視覚化 （視点２－(3)）

まとめ	7　学習課題を解決するためにはどのようなことを考えていく必要があるか、今日の学習やこれまでの経験を踏まえて考え、学習の見通しをもつ。	学習課題を踏まえた学習の見通し （視点１－(2)） □自分の生活との関わりから、物や金銭の大切さに気付き、その使い方に関心をもっている。（行動観察・ワークシート・話合い）

エ　板書計画



(8)　検証授業の振り返り

ア　成果

(ｱ)　自分の生活について振り返り、課題をもち、解決しようとする力を育む視点

実生活の振り返りをしやすくする導入の工夫（視点１－(1)）

宿泊行事の際に、土産を選び買物している様子の写真を導入で用いたことで、「買物には自分や家族の生活を豊かにする魅力がある。」、「自分自身も購買行動を行う消費者の一員である。」ということを同時に気付かせることができた。その結果、児童は買物をする際に何気なく使っていた様々な視点に気付き、活発に意見を出すことができた。また、この意見交流の際に、既に自分の買物の仕方の問題に気付く児童もおり、本時のねらいに迫ることができた。

学習課題を踏まえた学習の見通し（視点１－(2)）

学習課題を明確にして、今後学習していきたいことを考えさせた。これにより、本題材における中心的な「見方・考え方」である「持続可能な社会の構築」につながる児童の発言があった。例えば、「物を大切に扱うこと」や、４年生の社会科で学んだ「３Ｒを

意識して買物をすること」などである。学習課題の文言を「上手な買い方」とせず「無駄のない生活」としたことも、児童の考えの広がりにつなげられた要因であると考える。

また、今回の学習で児童から「インターネットでの購入で注意すること」といった発言もあった。中学校の技術・家庭科で学ぶ内容であるが、児童の生活の実態としてこうした購入形態が身近になっていることも十分に踏まえれば、カリキュラム・マネジメントを意識した授業作りにつなげられることが分かった。

(ｲ) 考え方を広げ、判断し、よりよい方法を決定する力を育む視点

意見交流を促す学習形態の工夫（視点２-(2)）

「買物の経験」を少人数のグループ及び全体で伝え合うことで、実生活における様々な課題について互いに気付くことができ、自分たちが理想とする「よりよい買物の在り方」に至るまでに考えるべきことを顕在化させることができた。

児童の意見の観点整理と視覚化（視点２-(3)）

買物の経験から感じた課題を三つの観点で分類・整理し、板書で示した。これにより、児童が自分の買物の仕方の課題を大まかに捉えたり、他者と課題を共有したりすることができ、「無駄のない生活」を目指すという学習課題の設定にも生かすことができた。

イ 課題

学習課題を踏まえた学習の見通し（視点１-(2)）

前述のとおり、題材の導入部分で、児童が自分の生活を振り返って課題を見付けることが、必然性のある学習課題の設定と授業の見通しにつながることが改めて分かった。それを支えるために重要な要素の一つが板書であり、授業の中で児童が思考した過程をキーワード化して簡潔に示してあることが大切である。この点が不十分だと、自分の理想とする姿と実生活の自分の姿を十分に比較することができなくなる可能性があり、児童が今後の学習への見通しとその根拠をもつことが難しくなることも分かった。児童の思考の過程を、もっと視覚的に分かりやすくする方法について、検討の余地がある。

対話を促すファシリテーターとしての教師の役割の設定（視点２-(2)）

検証授業①の視点に記載の通り、「対話を促すファシリテーターの役割」をする指導者が、児童から様々な意見が出た際に、児童の言葉による学習課題の設定につながる観点分けを素早く行うことが必要である。どのような児童の発言も大事にし、対話を促すことができる教師のファシリテートに関する技術を磨くことが今後の課題と考える。

３　検証授業③

(1)　題材名　第６学年「私たちの生活と地域の人々との関わり」

(2)　指導内容（＊は本研究による追記）

内容Ａ(3)　家族や地域の人々との関わり

ア　(ｲ)　地域の人々との関わり

イ　家族や地域の人々との関わりの工夫

内容Ｂ(6)　快適な住まい方

ア　(ｱ)　住まいの主な働き、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方

＊音に関すること

内容Ｃ(2)　環境に配慮した生活

ア　身近な環境との関わり、物の使い方

(3)　題材の目標

【内容Ａ(3)】

自分の家庭生活と地域の人々との関わりについて関心をもとうとする。

（家庭生活への関心・意欲・態度）

地域の人々との関わりについて見直し、快適に生活するための方法について考えたり、自分なりに工夫したりする。（生活を創意工夫する能力）

家庭生活が地域の人々との関わりで成り立っていることや協力し助け合っていく必要があることについて理解する。（家庭生活についての知識・理解）

【内容Ｂ(6)】

自然の中の音や生活音に関心をもち、快適な住まい方について考えようとする。

（家庭生活への関心・意欲・態度）

自然や生活の中にある音の役割や、自分や近隣の人々の生活への影響について理解する。

（家庭生活についての知識・理解）

【内容Ｃ(2)】

自分の生活と身近な環境との関わりに関心をもち、環境に配慮した生活をしようとする。

（家庭生活への関心・意欲・態度）

自分の生活を見直し、環境に配慮した生活の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。（生活を創意工夫する能力）

(4)　題材の評価規準

	ア　家庭生活への関心・意欲・態度	イ　生活を創意工夫する能力	ウ　生活の技能	エ　家庭生活についての知識・理解
Ａ(3)	①自分の家庭生活と地域の人々との関わりについて関心をもっている。	①地域の人々との関わりについて見直し、快適に生活するための方法について考えたり、自分なりに工夫したりしている。		①家庭生活が地域の人々との関わりで成り立っていることや協力し助け合っていく必要があることについて理解している。

B (6)	②自然の中の音や生活音に関心をもち、快適な住まい方について考えようとしている。			②自然や生活の中にある音の役割や、自分や近隣の人々の生活への影響について理解している。
C (2)	③自分の生活と身近な環境との関わりに関心をもち、環境に配慮した生活をしようとしている。	②自分の生活を見直し、環境に配慮した生活の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。		

(5)　題材の指導計画（全３時間）

次	時	◎小題材名　・学習活動	○育てたい資質・能力 □概念的な理解	評価規準
1	1	◎これまでの地域の人々との関わり方を見つめ直そう ・地域生活で起こる諸問題が描かれたイラストを見て、自分の生活が地域の人々の生活とつながっていることに関心をもち、学習課題を立てる。 ・これまでの生活の中で、自分が地域の大人の世話になっていることを考え、協力や配慮の必要性を理解する。	○地域の人々との関わり方への関心 ○家族や地域の人々と協力することの大切さへの理解	ア① エ①
		学習課題　どのように生活すれば、地域の人々との関わりを深め、協力や気づかいができるだろうか。		
		課外調査　地域の中での問題点や改善点の調査		
2	2 本時	◎生活と音との関わりを考えよう ・様々な音のサンプルを聞き、場所や時間、自分と音を出す人との関係などにより、音の役割や捉え方が変わることを知る。 ・自分だけでなく、周りが快適に過ごせるようにするための協力や配慮の仕方を考える。	○安全で快適な住まい方と生活の中の音との関わりへの関心 ○音に配慮した、快適で安全な住まい方への理解	ア② エ②
	3	◎地域生活と環境の関わりを考えよう ・自分の生活が、地域の環境に影響を与えていることを知る。 ・地域の人々とどのように関わりをもてば、快適で安全で、環境に配慮した生活ができるかを、自分の生活の中から具体的に考える。	○持続可能な社会の構築に向けた地域生活と環境との関わりへの関心 ○快適で安全で、環境に配慮した生活を実現するための、家庭や地域での生活の工夫 □周りの人々に配慮した住まい方や環境に配慮した生活について自ら考え、主体的に協力すれば、地域の人との交流が深まり、お互いが快適で安全に生活できる。	ア③ イ① イ②
		実生活における実践		

(6)　視点に迫るための手だて

ア　自分の生活について振り返り、課題をもち、解決しようとする力を育む視点

本題材は、内容Ａ(3)「家族や地域の人々との関わり」の学習を基盤とし、内容Ｂ(6)「快適な住まい方」の中の特に音に関する生活の仕方や、内容Ｃ(2)「環境に配慮した生活」の中の特にごみについての問題点を取り上げ、関連付けて指導する。

本題材において中心となる生活に係る見方・考え方について、【表３】のような整理を行った。題材を通して働かせたい中心的な見方・考え方が「協力・協働」の視点であり、それぞれの生活場面ごとに「健康・快適・安全」や「持続可能な社会の構築」の視点をそれぞれ働かせながら、具体的な課題の解決方法が考えられるように計画した。

【表３　本題材の指導内容と、主に働かせたい「見方・考え方」の視点との関わり】

視点／指導内容	協力・協働	健康・快適・安全	生活文化の継承・創造	持続可能な社会の構築
内容Ａ（3）	○			
内容Ｂ（6）		○		
内容Ｃ（2）				○

題材の導入では、児童が自分の生活が家庭だけでなく地域の人々ともつながりがあることを理解し、「どのように生活すれば、地域の人々との関わりを深め、協力や気遣いができるだろうか」という題材を通した学習課題を立てる。次に、自分が住む地域の中での問題を自分なりの視点で調査することで、実生活における課題を知り、よりよい生活の実現に向けた意識をもつ。そして、多くの児童にとって身近な課題である、「音」や「ごみ」などの地域の住環境に関する問題について具体的な改善策を考える活動を行い、自分と地域の人々の生活の在り方について自分なりの考えをもてるようにする。終末では、自分が調査し見付けた課題を中心に、周囲へ配慮しつつ自分なりに改善できる方法を考え、計画し、実践へとつなげる。

イ　見方・考え方を働かせ、判断しよりよい方法を決定する力を育む視点

本研究では、「協力・協働」の見方・考え方を働かせながらよりよい生活の在り方を考えるためには、「児童が生涯にわたって健康で豊かな生活を送るために『自立』すること」と、「家族や地域の人々の暮らしを考え、協力や配慮をしながら『共に生きる』こと」の双方の力を身に付けさせることが必要であると考えた。

そこで、まず「協力や配慮しながら『共に生きる』」とはどのようなことなのか、様々な生活場面の中から具体的に考えられるようにする。また、その解決方法について、児童が既習の知識及び技能を基に「今の自分ができること」に気付き、実生活の中で生かせるように、指導の工夫・改善を行う。

(7)　本時（２／３時間）

ア　小題材名　生活と音との関わりを考えよう

イ　ねらい

自然の中の音や生活音に関心をもち、快適な住まい方について考えようとする。

（家庭生活への関心・意欲・態度）

自然の中の音や生活音の役割や自分や近隣の人々の生活への影響について理解する。

（家庭生活についての知識・理解）

ウ　展開

	児童の学習活動 ○教師の発問　・予想される児童の反応	●支援　□評価 視点に迫る手だてとの関連
導入	1　前時の学習を踏まえて調査した、自分が住む地域で見付けた問題や課題を発表する。 2　本時のめあてを確認する。	
	生活と音との関わりを考えよう。	
	3　様々な音を聞き、自分にとっての聞き心地のよさで分類し、模造紙に絵シールを貼る。 ○　今から六種類の音を流します。聞こえてきた音について感じたことを、シールを使って「我慢できない」「少し気になる」「気にならない、何とも思わない」「心地よい、快適」の四つに分類しましょう。	●生活の中でよく耳にする音を実際に聞かせるとともに、個々の感じ方を絵シールで示すことで、学習への動機付けを行う。 実感を伴わせる導入の工夫 （視点１－(1)）
	子供の遊び声・ゲームの音・集合住宅での足音 赤ちゃんの泣き声・風鈴や虫の音・踏切の音	
展開	4　シールが貼られた模造紙を見て全体の傾向をつかみ、感じ方の共通点や違いを見付けて発表する。 ・ゲームの音は「我慢できない」「気になる」という人が多いが、心地よいと感じている人も少しいる。 ・赤ちゃんの泣き声は、感じ方の意見が分かれている。 ・風鈴や虫の音は、ほとんどの人が「心地よい」を選んでいる。 ・踏切の音や足音は、ほとんどの人が「我慢できない」「気になる」と感じている。 5　音が「我慢できない」「気になる」と感じる理由を考え、意見を出し合う。 ○　音によっては、心地よく感じる人とそうでない人、または、あまり気にならない人がいることが分かりますね。では、生活の中であなたが「静かにしてほしい」と感じるのはどこで何をしている時ですか。 ・自分の部屋で読書や勉強をしているとき。 ・リビングで電話をしているとき。 ・寝室で寝ているとき。	●シールの分布から、音の感じ方は人により異なり、自分が気にならなくても他の人にとっては我慢できないことや気になることがあると気付けるようにする。

展開	○　様々な場所や時間で、「静かにしてほしい」と感じているのですね。では、誰もいない公園なら、気にせず大きな声を出してもよいということですか。 ・すぐそばに人がいなくても、音は遠くまで聞こえてしまうからよくない。 ・自分はよくても、他人に迷惑がかかる。 ・公共の場でのルールやマナーがある。 6　音が発生する原因を考え、音を出さない生活が可能であるか考え、話し合う。 ○　「我慢できない」「ちょっと気になる」と感じる人がいる音を、一切出さずに生活することはできそうですか。 ・赤ちゃんは気持ちを伝えるために泣く。 ・音が無いゲームはつまらない。 ・踏切の音は、安全上必要である。 ・自分たちの声がうるさいと言われてしまうと、外で遊べなくなってしまう。 ・我慢しなければいけない音もある。	●自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて、音を出す「時間」や「場所」に気を付ける必要性に気付かせる。 発問を分けることによる要点の整理 （視点２－(3)） ●様々な理由で音が発生しており、音を出さずに生活することは難しいため、「音を出す側」「音を聞く側」の双方の理解が必要であることを押さえる。 見方・考え方を働かせる発問の工夫 （視点１－(1)） 対話による考えの広範化 （視点２－(2)） □自然の中の音や生活音の役割や自分や近隣の人々の生活への影響について理解している。 （発言・ワークシート）
まとめ	7　生活と音の関わりについて、まとめる。 生活の中の音について、音を出す時間や場所を、自分だけでなく相手の立場も考えて生活すれば、みんなが心地よく快適に過ごすことができる。 8　生活の中の音について、どのような協力や配慮の仕方があるか考える。 ○　前時に立てた学習課題を振り返りましょう。自分だけでなくみんなが気持ちよく過ごすために、あなたなら「音」についてどのような協力や気遣いができそうですか。	□自然の中の音や生活音に関心をもち、快適な住まい方について考えようとしている。 （発言・ワークシート） 学習課題を踏まえた課題解決 （視点２－(3)）

エ　板書計画

めあて　生活と音との関わりを考えよう。

＜静かにしてはしい時＞
・自分の部屋で読書
・リビングで電話
・寝室ですい眠中

＜だれもいない場所ではどうするか＞
・自分はよくても、他人に迷わく
・公共の場→ルールやマナーがある

音を聞く立場
と
音を出す立場

時間　**場所**
↓
「協力」や「気づかい」

＜音を出さない生活はできるか＞
・赤ちゃん　→泣くのは仕方がない
　泣くことで気持ちが伝わる
・踏切の音　→命を守るために必要
・ゲームの音→音無しではつまらない
　イヤホンを使うとよい
・子供の声　→さわがしくしなければよい
　楽しい時はがまんできない

音のない生活は不便
安全・快適ではない

まとめ　**生活の中の音について、音を出す時間や時間や場所を、自分だけでなく相手の立場も考えて生活すれば、みんなが心地よく快適に過ごすことができる。**

(8)　検証授業の振り返り

ア　成果

(ｱ)　自分の生活について振り返り、課題をもち、解決しようとする力を育む視点

実感を伴わせる導入の工夫　見方･考え方を働かせる発問の工夫(視点１－(1))

音の選定に当たっては、様々な立場で音の意味を捉えさせたり、実生活の中で解決に向けた具体策に結び付けたりできるように、「児童自身が生活の中で出している音か、それ以外の音か」と「児童が自分で改善できる音か、それ以外の音か」という二つの観点から考え、異なる性質をもった六つの音を教材として選択した。検証授業では、実際に音を聞かせることにより、児童の音に対する興味・関心を引き出すとともに、他者の立場でも音の意味を捉えて課題に取り組む必要性に気付かせることができた。

また、今回の検証授業では、児童が「生活の営みに係る見方・考え方」の中でも「快適」という視点を働かせて考えることを想定していたが、実際には「健康」や「安全」の視点を働かせた意見も複数出てきた。これは、年度当初のガイダンスを含め、年間を通して「見方･考え方」を価値判断の基準とした授業を展開できたことの成果と考える。

(ｲ)　考え方を広げ、判断しよりよい方法を決定する力を育む視点

学習課題を踏まえた課題解決（視点２－(3)）

第１時で、地域との関わり方として「協力」や「気遣い」といったキーワードが出てきた。これを学習課題としたことにより、児童が自分の生活の課題を解決するための指針となり、児童から「近所の人と普段から交流して、理解を深める。」「音が出る原因によっては我慢することも必要である。」といった、他者意識をもった解決方法を導き出すことができた。このように、題材の初めに学習課題を設定することで、学習内容が広範囲に及ぶ題材においても「見方・考え方」を柔軟に働かせることにつながり、児童が多様な考えをもつことができるようになると考える。

イ　課題

対話による考えの広範化（視点２－(2)）

今回の検証授業では、展開部分の後半でグループによる対話的な活動を取り入れることで、「立場の違いによる音の必要性の違い」に気付かせようとした。しかし、「音を出さない生活ができるかどうか」という答えがある程度限定される発問であったため、様々なケースに対する答えは多く出されたが、児童相互の考えの深まりにつなげられるような多様な意見が出されたとまでは言えなかった。よって、対話の場面では様々な考え方を共有するだけでなく、考えの深化に結び付けるための発問を、授業の中の適切な場面で設定することが必要であったと考える。例えば、今回の検証授業では、自己の生活の課題に即したまとめ部分で対話の時間を設けることで、様々な立場からの解決方法に触れられるようになったのではないかと考える。

発問を分けることによる要点の整理（視点２－(3)）

音が生活に及ぼす場面を考えさせる活動では、「場所」と「時間」の両方の要素に気付かせるために、発問を分けた。しかし、児童の実態によってはこの要素そのものをキーワード化するのは難しかったため、今後発問や要点整理の方法を検討する必要がある。

Ⅶ　研究の成果

本研究では、研究主題を「よりよい生活の在り方を考え、実生活に生かす児童の育成」とし、児童が家庭科の学習を通して「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら課題解決型学習に取り組むことが有効であるという研究仮説のもと、二つの視点を設定して研究を行った。本研究の成果は以下のとおりである。

1　自分の生活について振り返り、課題をもち、解決しようとする力を育む視点

(1)　実感を伴わせる学習活動の工夫、「見方・考え方」を働かせる場の設定

- 写真や実物などの教材を用いて提示する工夫により、児童が自分の生活について実感を伴いながら考え、容易に実生活を振り返ることができるようになることが分かった。
- 他者との対話により、児童が自分とは異なる様々な観点や考え方を見付け、自己の行動の社会的な意義や家族や消費者の一員としての役割に気付くことができた。そして、自分の生活の課題を一人一人が具体的にもてるようになった。このことから、対話的な学びは、児童が「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、よりよい生活の在り方を考えることにつながることが分かった。
- 児童に互いの考えを比較させることによって、日常で働かせている観点を顕在化させることができ、多様な意見が引き出され、主体的な対話につながった。

(2)　学習課題を明確にした課題解決型学習

- 児童の言葉で学習課題を作ることにより、それぞれの題材でこれから学ぶことが、自分が今考えるべき必要感のある課題であると、児童に意識付けることできた。
- 学習過程を板書などにより視覚化することで、学習への見通しがもたせやすくなり、課題解決型の学習へとつなげやすくなった。
- 課題解決型の学習は、教科等横断的な学習にもつながり、児童の興味・関心の幅を広げることができた。そして、よりよい生活の実現に向けて主体的に学ぼうとする児童を育てることができた。

2　見方・考え方を働かせ、判断し、よりよい方法を決定する力を育む視点

(1)　基礎的・基本的知識及び技能の概念化

- 題材の指導内容と、児童へ主に働かせたい「見方・考え方」の視点との関わりを明確にした指導計画を作成することにより、指導者側の学習指導の指針となった。そして、児童が判断をする際の根拠となるような資料や発問等を精選することができた。
- 学んだことを実生活に生かす場面では、児童が基礎的・基本的知識及び技能の概念を踏まえ、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら自分の生活に応じた実践の見通しをもてるようになった。

(2)　対話的な学習の計画的な設定

- 経験したことや身近な題材を対話のテーマとして設定することにより、児童が活発に対話をした。これにより、実生活における様々な課題に気付くことができ、自分たちが理想とする「よりよい生活の在り方」に至るまでに考えるべきことを顕在化させ、学びを深めることにつながった。

・　対話的な学習の場を設定するのみならず、本時のねらいを踏まえ、児童の対話をつなげて整理し、新しい観点を提示するなど、対話を活発にする指導者のファシリテートが重要であることが分かった。

(3)　よりよい生活の在り方を考えるための思考の場の設定

・　題材の導入において、様々な生活の実態や課題からどのような生活を目指したらよいかを児童に考えさせる場を設定した。これにより、児童は「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせて思考し、よりよい生活の在り方を考えることができた。

・　児童から出てきた課題を分類整理することにより、課題を大まかに捉えたり、他者と課題を共有・比較したりすることができ、よりよい生活を目指すという学習課題を立てることにつながった。

・　学習課題に立ち返る場を設定することで、よりよい生活の在り方を考え、自分なりの工夫を考えていくことにつなげることができた。

Ⅷ　研究の課題

1　児童の学びをより深めるための対話の在り方の検討

対話的な活動については、まだ工夫・改善が必要である。例えば、①児童一人一人の思考の保障、②対話の目的の明確化、③適切な時間配分、④対話の過程による児童の思考の変化、⑤児童の思考に沿った発問、⑥学習形態の工夫などは、児童の思考や意識に大きな影響を与えることから、更なる研究が必要だと考える。また、対話的な活動を行う際には、児童の発言のまとめ方や示し方に留意しなければならないことが分かった。児童の発言を別の言葉に置きかえて板書することは、児童の思考を促すために重要なことであるが、その際、指導者の考え方への誘導にならないように、あらかじめ児童の発言について想定しておく必要がある。そのためにも、ファシリテーターとしての指導者の役割について検討していく。

2　教科等や異校種の学習内容を踏まえた題材構成

本研究を通して、課題解決型学習はよりよい生活の在り方を考え実生活に生かしていく上で大変重要な学習プロセスであることが分かった。しかし、家庭科の時間だけで児童の実生活の全ての課題を解決していく資質・能力を育成することは難しい。よって、児童の実態を踏まえながら、二年間を見通した題材設定や、教科等横断的な指導計画を構成し、様々な見方・考え方を働かせながら、繰り返し課題解決型学習に取り組んでいけるようにカリキュラム・マネジメントを行っていく必要がある。

3　概念化した知識・技能の実生活への活用

今回の検証授業において、題材における個別具体な概念的知識・技能については顕出することができたが、獲得した概念的知識・技能を、児童がどのようにして未知の課題の解決に生かしていくかの検証までには至っていない。

家庭科においては、全ての題材において概念的知識・技能を明らかにし、児童の家庭生活の中で確実に実践に生かすことができるように、知識・技能の偏りや漏れが無いように綿密な年間指導計画を設定する必要がある。

平成30年度　教育研究員名簿

小学校・家庭

学　校　名	職　名	氏　名
大田区立東調布第一小学校	主任教諭	萩原　美奈子
世田谷区立京西小学校	教　諭	山本　友紀恵
豊島区立南池袋小学校	教　諭	前田　充栄
足立区立伊興小学校	教　諭	◎橋本　英明
武蔵野市立井之頭小学校	主任教諭	竹田　茜

◎　世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事　西尾　英里子

平成 30 年度

教育研究員研究報告書
小学校・家庭

東京都教育委員会印刷物登録
平 成 30 年 度 第 135 号

平成 31 年３月発行

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所　在　地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０―６８４９
印刷会社　康印刷株式会社

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。